

IV 資料編

第7次笠岡市総合計画

- 資料1 第7次笠岡市総合計画策定経過
- 資料2 笠岡クロニクル（ワークショップ）の概要
- 資料3 指標一覧
- 資料4 笠岡市総合計画審議会委員名簿
- 資料5 諮問書・答申書

1 第7次笠岡市総合計画策定経過

年 月	市民参加等	総合計画審議会	議会／行政
2016年6月	市民意識調査 (市民 3,000 人対象)		
9月		第1回審議会 (9/26) 諮問	第1回推進協議会第1会議 (9/16)
11月		第2回審議会 (11/24)	第1回推進協議会第2会議 (11/4)
2017年1月		第3回審議会 (1/27)	第2階推進協議会第1会議 (1/19)
5月	第1回笠岡クロニクル (5/31) ※ワークショップ	第4回審議会 (5/31)	第3回推進協議会第1会議 (5/9)
6月		第5回審議会 (6/30)	
7月	第2・3回笠岡クロニクル (7/23) ※ワークショップ	第6回審議会 (7/3) 第7回審議会 (7/23)	
8月	パブリックコメント開始 (8/25)		
9月	パブリックコメント終了 (9/21)		市議会より意見提出
10月		第8回審議会 (10/13)	
11月		答申	
2018年2月			市議会で議決



笠岡クロニクルとは

笠岡クロニクル (Chronicle=年代記) とは、これから「まちづくりを担う世代(若者)」, 現在「まちづくりを担っている世代」が協力し合い、笠岡市の過去と未来をつなぐ、まちづくりに関する年代記を作成するという新しいワークショップの手法です。

① 笠岡クロニクルの実施目的

① 市民ニーズの把握

とりわけアンケートの回答率の低い若者や、アンケートの対象となっていない高校生等のまちづくりに関するニーズの把握

計画策定に向けて

② 世代間・学校間交流

多様な主体が一堂に会して取組を行うことにより、日常的に交流する機会の少ない世代間・学校間に、新しいつながりを生み出す

計画推進に向けて

③ 次代の担い手育成

若い世代に、これまでの笠岡市のまちづくりを知る機会と、未来の笠岡市を考える機会を提供し、まちづくりへの参加を促す

② 笠岡クロニクルの参加者

総合計画審議会委員



10名

若者会議参加者



10名

市内の高校に通う高校生



- ◇笠岡高校 生徒3名
- ◇笠岡商業高校 生徒5名
- ◇笠岡工業高校 生徒8名+教員1名
- ◇岡山龍谷高校 生徒3名+教員1名

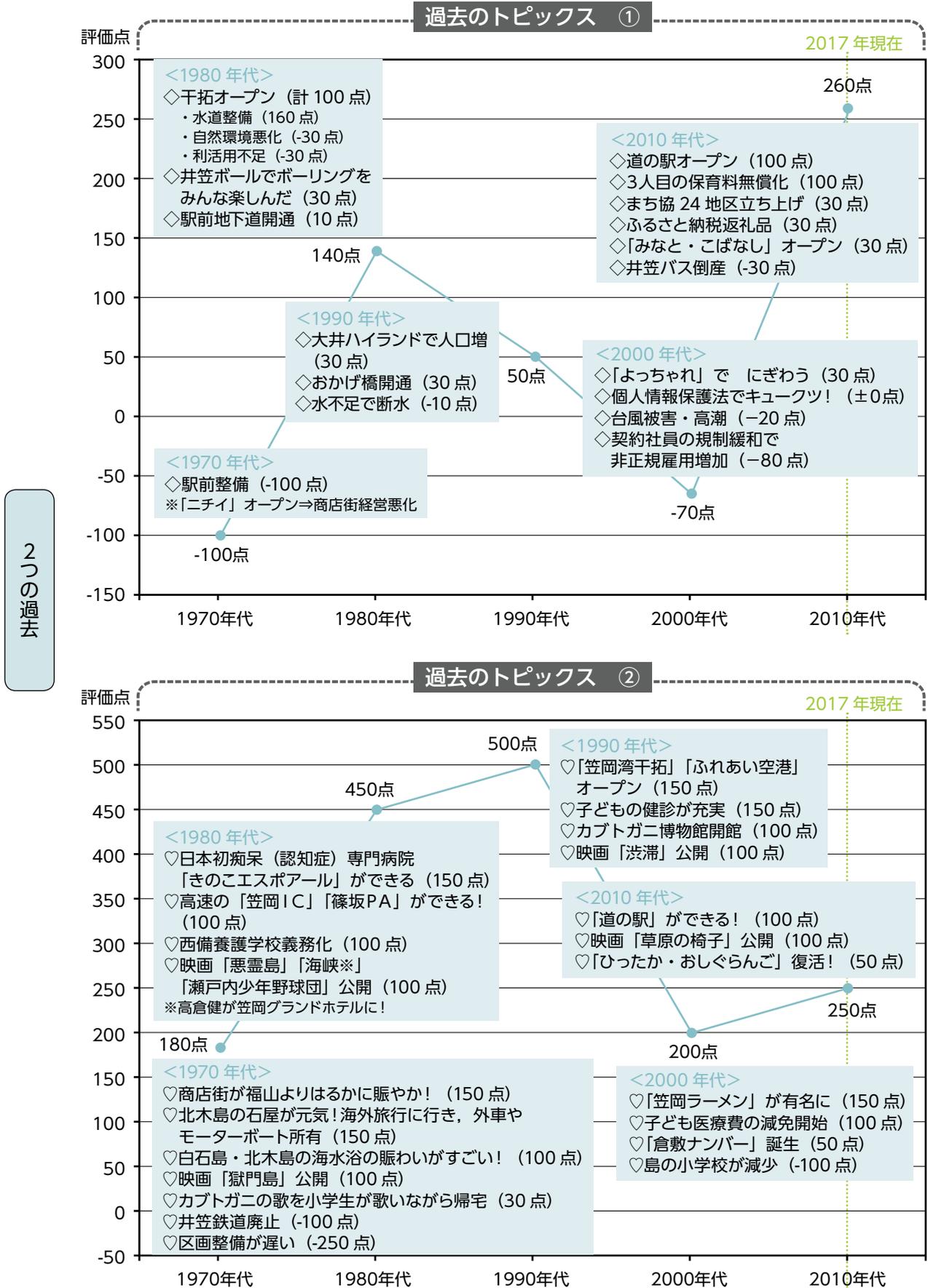
③ 笠岡クロニクルの実施概要

第1回	<p>◇過去のトピックスの作成</p> <p>※「まちづくりを担っている世代」が、笠岡市のまちづくりに関わる出来事を年代に沿って一覧化するとともに、それぞれの出来事を点数化</p>
第2回	<p>◇過去のトピックスの伝承</p> <p>※「まちづくりを担っている世代」から、「これからまちづくりを担う世代」へ、笠岡市で起こった過去のまちづくりにまつわる“物語”と“想い”を伝承</p>
第3回	<p>◇未来のトピックスの作成・発表</p> <p>※「これからまちづくりを担う世代」がそれぞれの未来の自分の姿、また、そのときの笠岡市の姿を想像し、市内でこれから起こる出来事や環境の変化等について検討・提案し、それぞれの出来事を点数化し発表</p>

	第1回	第2回	第3回
開催日	平成29年5月31日(水) 16:15～17:45	平成29年7月23日(日) 9:00～9:45	平成29年7月23日(日) 9:45～11:30
会場	笠岡中央公民館 集会室(4階)		
参加者	◇総合計画審議会委員 10名	◇総合計画審議会委員4名 ◇市内の高校に通う高校生 19名 ◇市内の高校の教員2名 ◇若者会議参加者10名	◇市内の高校に通う高校生 19名 ◇市内の高校の教員2名 ◇若者会議参加者10名
チーム	2チーム	なし	4チーム

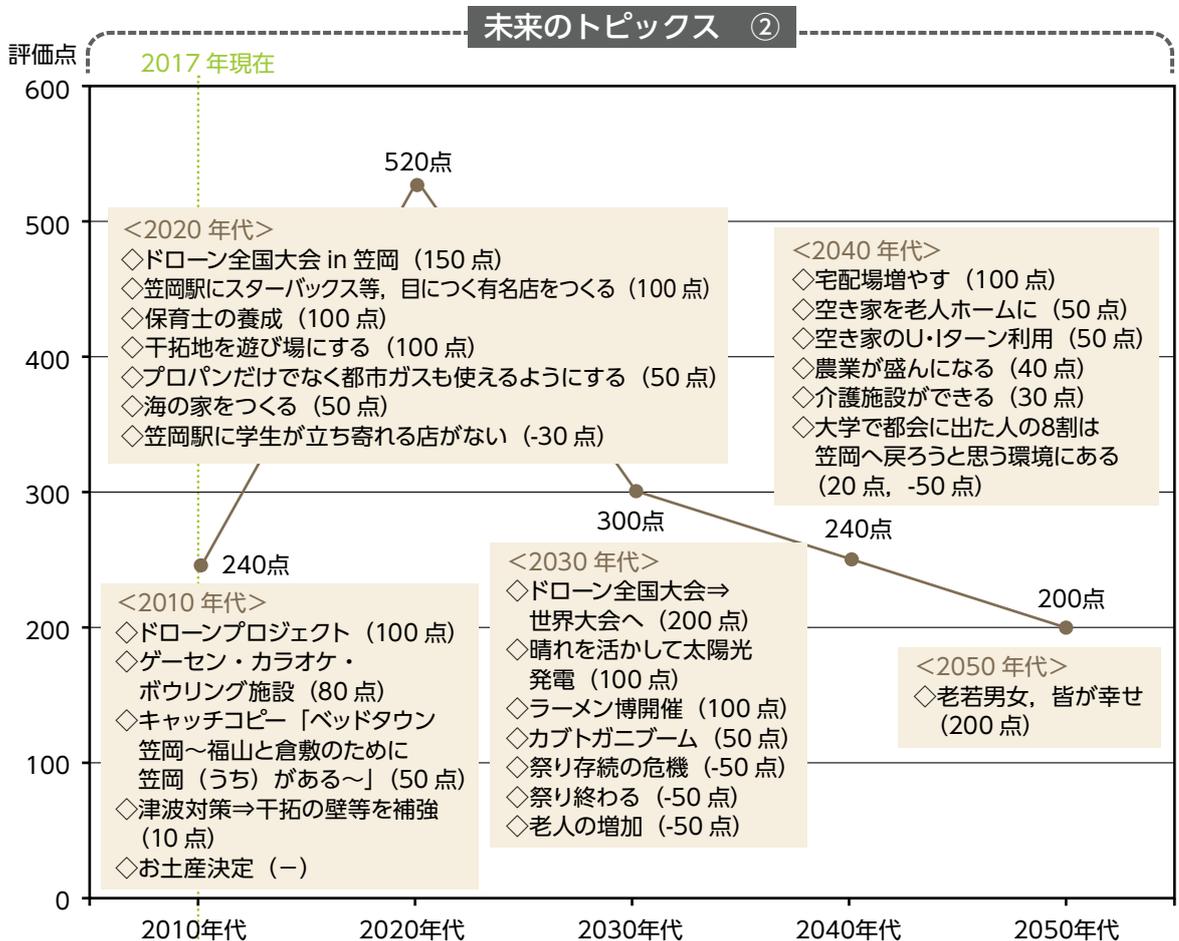
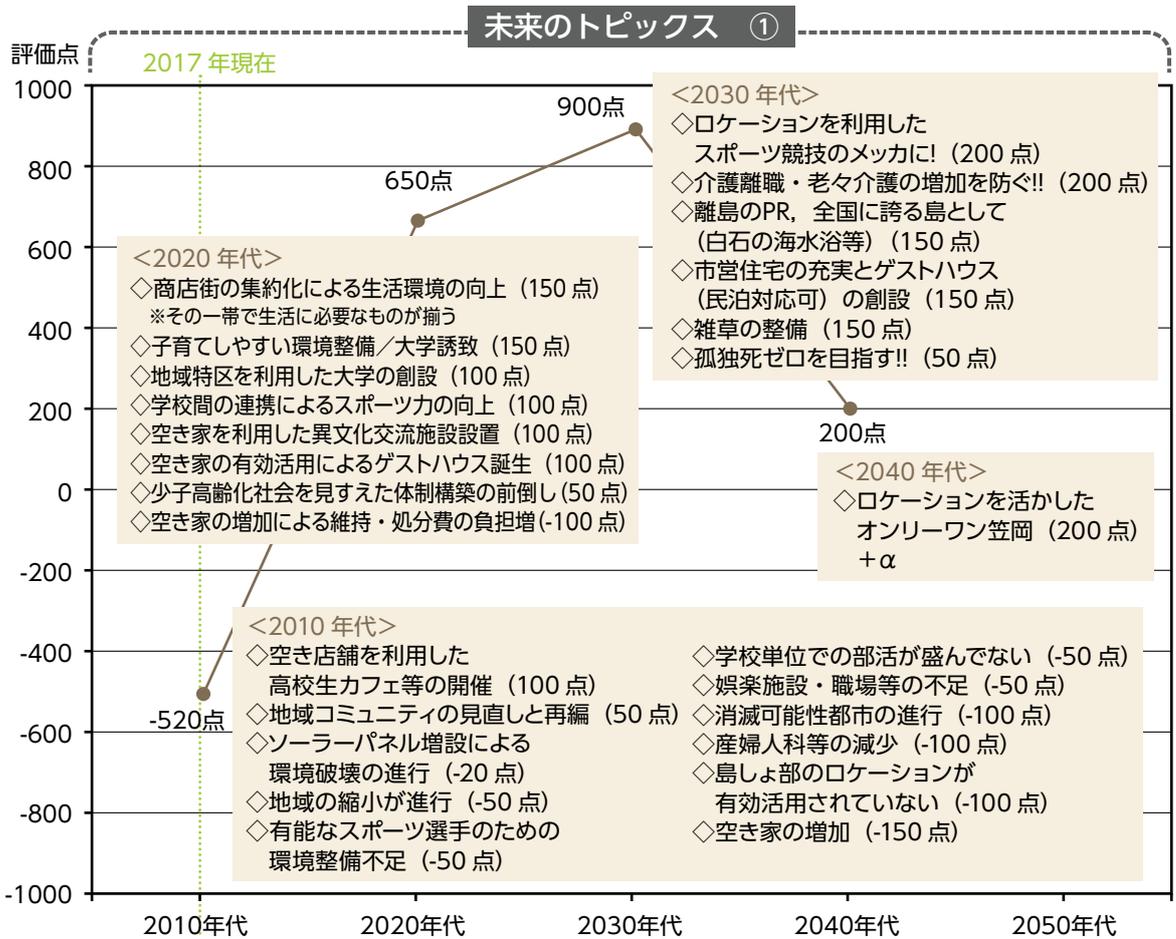
④ 笠岡クロニクルの成果

今回の成果として、2つの「過去」と4つの「未来」の年代記が作成されています。

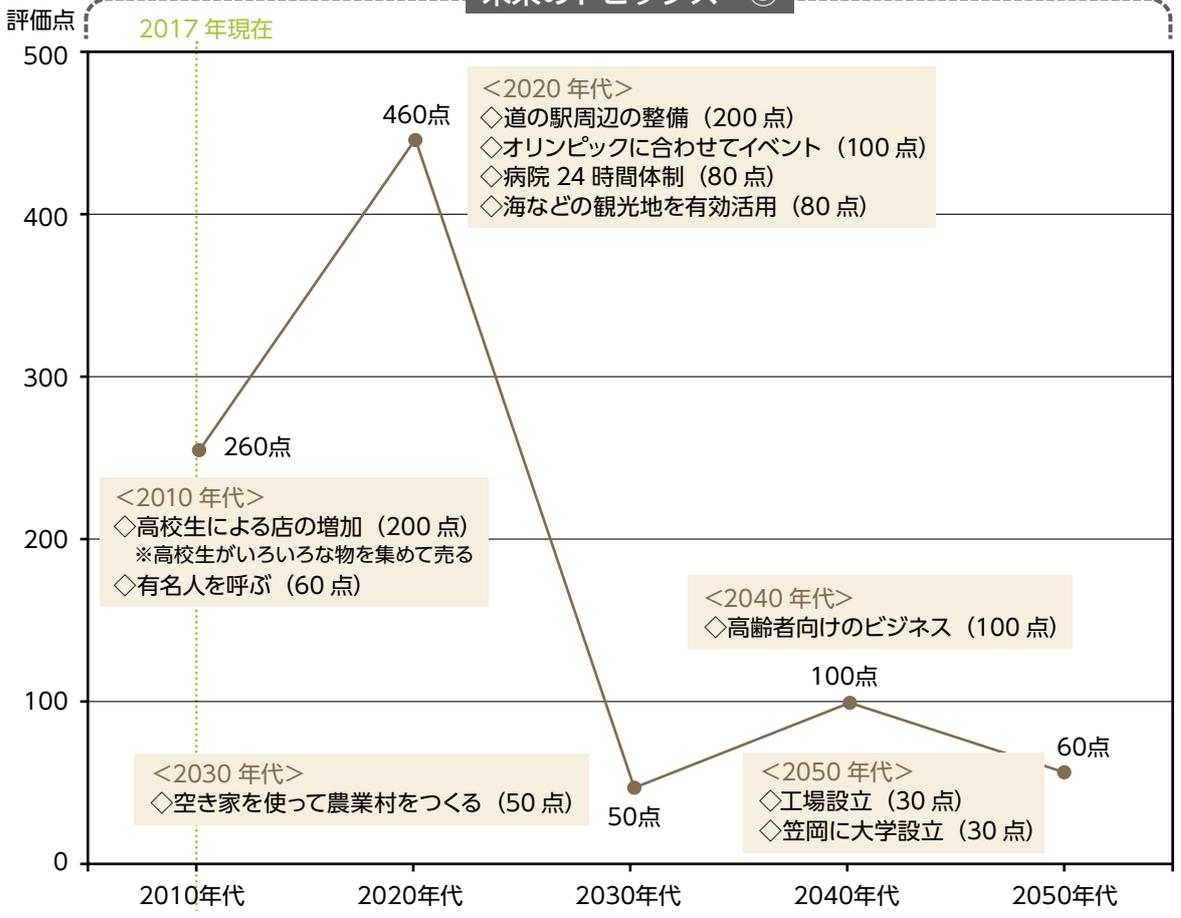


2つの過去

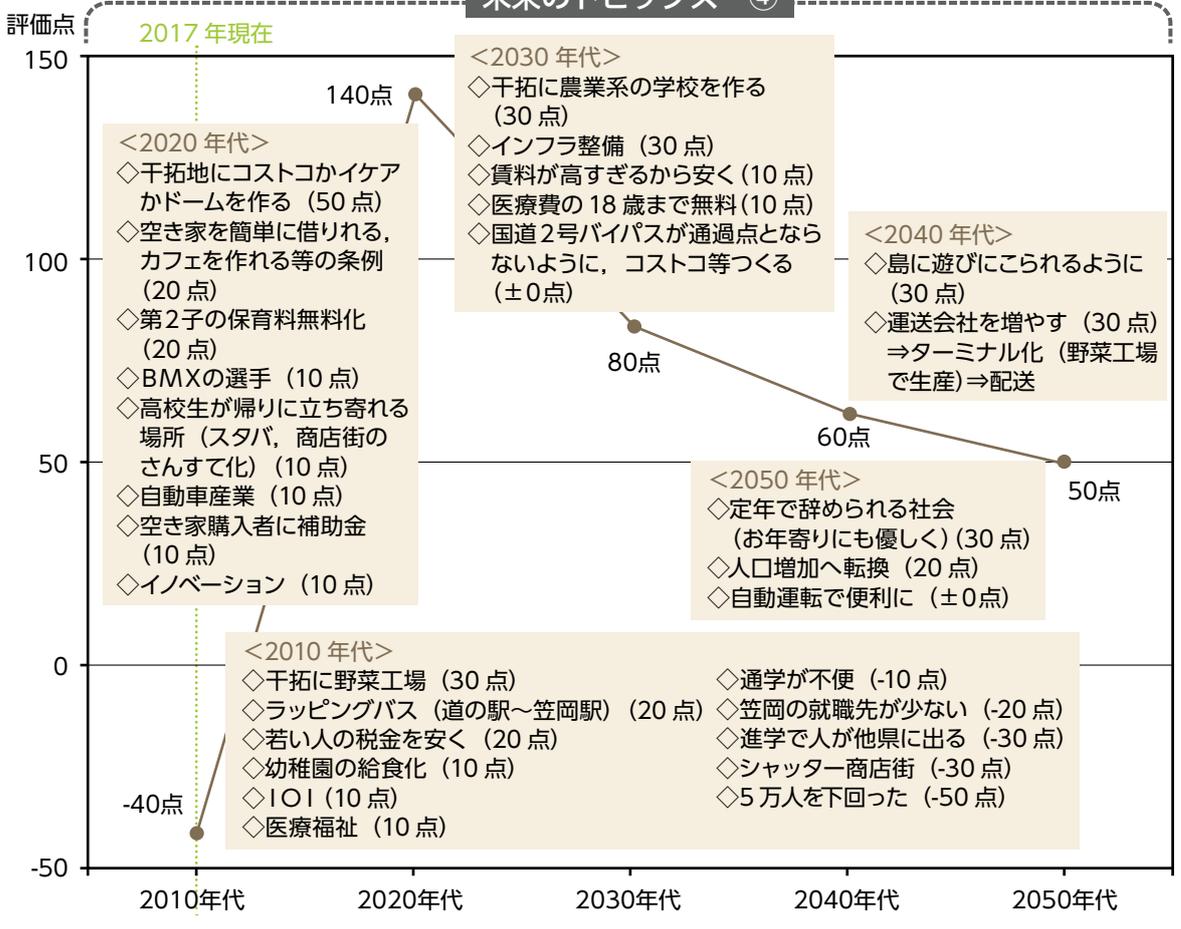
資料編



未来のトピックス ③



未来のトピックス ④



●過去のトピックスからみる関心が高いと考えられる分野（項目）

特に「笠岡湾干拓地」「道の駅」のオープンは具体的に両チームのトピックスとしてあがっており、評価点が高くなっています。また、「都市計画」に関わる内容が、両チームそれぞれ評価点が最も低い項目としてあがっており、こうしたハード面に関して市民の関心が高いことがわかります。なお、ソフト面では子ども・子育てに関連するトピックスが多くあがっています。

分野（項目）	関連するトピックス
笠岡湾干拓地	干拓オープン、「笠岡湾干拓」オープン
道の駅	道の駅オープン、「道の駅」ができる！
都市計画	駅前整備（「ニチイ」オープン⇒商店街経営悪化）、区画整備が遅い
道路・交通	駅前地下道開通、おかげ橋開通、「みなと・こばなし」オープン、井笠バス倒産、井笠鉄道廃止、「笠岡IC」「篠坂PA」ができる、「ふれあい空港」オープン
子ども・子育て	3人目の保育料無償化、西備養護学校義務化、子どもの健診が充実、子ども医療費の減免開始、島の小学校が減少

●未来のトピックスからみる関心が高いと考えられる分野（項目）

特に「空き家・空き店舗」の活用について、4チームそれぞれからトピックスとしてあがっています。また、過去のトピックスとの共通項でみると、「笠岡湾干拓地」に関する意見が特に多くなっており、関心の高さがうかがえます。

分野（項目）	関連するトピックス
空き家・空き店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を利用した異文化交流施設設置 ・空き家の有効活用によるゲストハウス誕生 ・空き家の増加による維持・処分費の負担増 ・空き家の増加 ・空き店舗を利用した高校生カフェ等の開催 ・空き家を老人ホームに ・空き家のU・Iターン利用 ・空き家を使って農業村をつくる ・空き家を簡単に借りれる、カフェをつくれる等の条例 ・空き家購入者に補助金
笠岡湾干拓地	<ul style="list-style-type: none"> ・干拓地を遊び場にする ・干拓に野菜工場 ・干拓地にコストコかイケアかドームをつくる ・干拓に農業系の学校をつくる ・津波対策⇒干拓の壁等を補強
道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅周辺の整備
都市計画	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ整備 ・商店街の集約化による生活環境の向上 ・地域特区を利用した大学の創設 ・笠岡駅にスターバックス等、目につく有名店をつくる
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ラッピングバス（道の駅～笠岡駅） ・国道2号バイパスが通過点とならないように、コストコ等つくる ・通学が不便

分野（項目）	関連するトピックス
子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすい環境整備／大学誘致 ・第2子の保育料無料化 ・医療費の18歳まで無料 ・産婦人科等の減少 ・幼稚園の給食化
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・介護離職・老々介護の増加を防ぐ！ ・介護施設ができる ・高齢者向けのビジネス ・定年で辞められる社会（お年寄りにも優しく） ・孤独死ゼロを目指す！！ ・老人の増加
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・有能なスポーツ選手のための環境整備不足 ・ロケーションを利用したスポーツ競技のメッカに！ ・オリンピックに合わせてイベント ・BMXの選手 ・学校間の連携によるスポーツ力の向上
島しょ部・海	<ul style="list-style-type: none"> ・島しょ部のロケーションが有効活用されていない ・離島のPR，全国に誇る島として（白石の海水浴等） ・海の家をつくる ・島に遊びにこられるように ・海等の観光地を有効活用
若者の遊び場	<ul style="list-style-type: none"> ・娯楽施設・職場等の不足 ・ゲーセン・カラオケ・ボウリング施設 ・笠岡駅に学生が立ち寄れる店がない ・高校生が帰りに立ち寄れる場所（スタバ，商店街のさんすて化）

●未来のトピックスにおける独創的な提案等

その他，若者ならではの独創的な提案がみられます。

分野（項目）	関連するトピックス
ドローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンプロジェクト ・ドローン全国大会 in 笠岡 ・ドローン全国大会⇒世界大会へ
高校生の店	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生による店の増加 ※高校生がいろいろな物を集めて売る ・【再掲】空き店舗を利用した高校生カフェ等の開催
学校間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校単位での部活が盛んでない ・【再掲】学校間の連携によるスポーツ力の向上
宅配場	<ul style="list-style-type: none"> ・宅配場増やす ・運送会社を増やす⇒ターミナル化（野菜工場で生産）⇒配送
キャッチコピー	「ベッドタウン笠岡～福山と倉敷のために笠岡（うち）がある～」
生活環境	プロパンだけでなく都市ガスも使えるようにする



第1章 経営戦略

1-1 企業誘致の推進と雇用創出

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	笠岡港工業用地での新規操業開始企業数	企業/年		○	笠岡港工業用地で新規操業を開始した企業数	企業誘致等により、新規操業を開始する企業を増やし、市民の働く場の創出を目指します。
	その他の場所での新規操業開始企業数	企業/年		○	笠岡港工業用地以外で新規操業を開始した企業数	企業誘致等により、新規操業を開始する企業を増やし、市民の働く場の創出を目指します。
	「企業誘致・雇用の創出」の満足度（市民意識調査）	%	○		市民意識調査での満足度	満足度を把握・向上し、市民のニーズに応じた働く場が創出されるまちづくりを目指します。
達成目標 1	笠岡港工業用地での新規操業開始企業数	企業/年		○	笠岡港工業用地で新規操業を開始した企業数	企業誘致等により、新規操業を開始する企業を増やし、市民の働く場の創出を目指します。
	その他の場所での新規操業開始企業数	企業/年		○	笠岡港工業用地以外で新規操業を開始した企業数	企業誘致等により、新規操業を開始する企業を増やし、市民の働く場の創出を目指します。
	事業用地造成促進奨励金支給件数	件		○	事業用地造成奨励金の支給件数	民間による事業用地の造成を図ることで、企業誘致等につなげ、市民の働く場の創出を目指します。
達成目標 2	笠岡公共職業安定所管内の年間有効求人倍率	倍		○	笠岡公共職業安定所管内の年間（年度）有効求人倍率の平均値	年間有効求人倍率を維持し、就業を希望する人がニーズに応じて仕事を選択できるまちを目指します。
	高校生長期インターンシップ延べ参加者数	人	○		笠岡市が委託する高校生長期インターンシップの参加者数（年間7人）	インターンシップ参加者数の増加により、高校卒業後の市内事業所への就業を促すとともに、市内事業者と学校、行政との信頼関係の醸成を図ることを目指します。

1-2 農業振興

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	市内農業産出額（農水省市町村農業産出額推計）	千円/年	○		市内の農業産出額の推計額	農地の集積による効率的な農業経営を目指します。
	「農林業の振興」の満足度（市民意識調査）	%	○		市民意識調査での満足度	笠岡産農産物、農地の有効活用等について周知を行い、農業のイメージアップを目指します。
達成目標 1	市内農作物の産出額（野菜・果実）（農水省市町村農業産出額推計）	千円/年	○		市内の農業産出額（野菜・果実）の推計額	市内農作物の産出額の増加による産地としての強化、かさおかブランドの確立を目指します。
	市内農作物の産出額（花き）（農水省市町村農業産出額推計）	千円/年		○	市内の農業産出額（花き）の推計額	バラ等のブランド化を促進し、産地としての強化を目指します。
	市内農作物の産出額（米）（農水省市町村農業産出額推計）	千円/年	○		市内の農業産出額（米）の推計額	農地の集積による効率的な農業経営、笠岡のおいしいお米ブランドの確立を目指します。
	牛の飼養頭数（笠岡市内全体/乳用牛・肉用牛）	頭	○		笠岡市内での牛（乳用牛・肉用牛）の飼養頭数の合計値	牛の飼養頭数の増加により、産地としての強化を目指します。
	採卵鶏の飼養羽数	羽	○		笠岡市内での採卵鶏の飼養羽数の合計	採卵鶏の飼養羽数の増加により、産地としての強化を目指します。
	かさおかブランド「農林業部門」認定件数	件/年	○		かさおかブランド「農林業部門」での認定資源数	ブランド化を促進し、農業従事者の収益増、農業従事者の意欲向上を目指します。
達成目標 2	新規認定農業者数	人	○		新規認定農業者数	認定農業者による農地の集積化により、産地としての強化を目指します。
達成目標 3	市内耕作放棄地面積	ha		○	市内の耕作放棄地面積の合計	優良農地の荒廃化を防ぎ、有効利用を目指します。
	中山間地域等直接支払制度協定締結面積	ha		○	中山間地域等直接支払制度における協定締結面積の合計	協定締結面積の増加により、耕作放棄地の減、棚田等の保全及び維持を目指します。
達成目標 4	多面的機能支払交付金事業を活用する認定農用地面積	ha	○		多面的機能支払交付金における認定農用地面積の合計	認定農用地面積の維持・増加により、農地・農業用施設の保全及び維持を目指します。
	防護柵補助件数	件/年	○		防護柵の設置に対する補助金の交付件数	防護柵の設置を推進し、農作物被害の減少を目指します。
達成目標 4	駆除班員数	人		○	猟友会駆除班員の人数	駆除班員の増員により、猟友会員の高齢化の課題解消を目指します。

1-3 商工業振興

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	総人口1人当たりの市民所得	千円	○		岡山県が作成する岡山県市町村民経済計算の1人当たり市町村民所得(毎年1万円の増)	市民所得の増加により、個人、法人等を含む市内居住者の生産活動を活性化することを目指します。
	事業所数(経済センサス統計調査)	事業所		○	総務省が実施する経済センサスの事業所数(事業所の維持)	中小企業者の廃業を少なくし、円滑な事業承継と起業の増加により地域経済の活性化を目指します。
	従業員数(経済センサス統計調査)	人	○		総務省が実施する経済センサスの従業員数(年間25人の従業員数の増)	市内の事業所を活性化することにより、安心して仕事に就けるまちを目指します。
	従業員4人以上の製造業の事業所数(工業統計調査)	事業所	○		経済産業省が実施する工業統計調査の従業員4人以上の製造業の事業所数(年間1事業者増)	中小企業者(製造業)の廃業を少なくし、円滑な事業承継と起業の増加により地域経済の活性化を目指します。
	従業員4人以上の製造業の従業者数(工業統計調査)	人	○		経済産業省が実施する工業統計調査の従業員4人以上の製造業の従業者数(年間4人の従業員増)	製造業を活性化することにより、安心して仕事に就けるまちを目指します。
達成目標1	製造品出荷額等(工業統計調査)	百万円	○		経済産業省が実施する工業統計調査の製造品出荷額等の金額(前年比年間1%増)	製造業の出荷額等を増やすことにより、地域経済の活性化を目指します。
	粗付加価値額(工業統計調査)	百万円	○		経済産業省が実施する工業統計調査の粗付加価値額等の金額(前年比年間1%増)	付加価値の高い製品を出荷することにより、製造業を活性化し、地域経済の活性化を目指します。
	年間商品販売額(商業統計調査)	百万円		○	経済産業省が実施する商業統計調査の年間商品販売額等の金額(2018年の販売額を維持)	サービス業を活性化することにより、市民が市内で安心して買い物ができるまちを目指します。
	かさおかブランド「産業・技術部門」認定件数	件	○		かさおかブランド「産業・技術部門」の認定資源数	地域が誇る資源を発掘し、広く周知することで、観光客の誘客と経済効果を目指します。
達成目標2	起業支援事業補助金の新規交付件数	件/年		○	笠岡市起業支援事業補助金の新規交付件数(年間8者の支給)	新規起業を促進し、地域経済の活性化を目指します。
	中心市街地空き店舗利用促進補助金交付件数	件/年		○	笠岡市中心市街地空き店舗利用促進補助金交付件数(年間1者の支給)	空き店舗を有効に活用し、中心市街地の賑わいの創出を目指します。
	事業承継支援補助金交付件数	件/年		○	笠岡市事業承継支援補助金交付件数(年間2事業者の事業承継の支援)	中小企業者の円滑な事業承継を支援し、働く場所の確保と地域経済の活性化を目指します。
	笠岡商工会議所青年部の会員数	人	○		笠岡商工会議所青年部の会員数(年間1人の会員数増)	会員数の増加により、笠岡市の次世代を担う若い経営者の増加を目指します。

1-4 水産業振興

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	漁獲量(海面漁業)	t/年		○	海面漁業による漁獲量	漁獲量の維持により、経営体の活性化と水産物による地域の食の魅力向上を目指します。
	漁獲量(養殖漁業)	t/年		○	養殖漁業(主にかき、のり)による漁獲量	漁獲量の維持により、経営体の活性化と水産物による地域の食の魅力向上を目指します。
	「水産業の振興」の満足度(市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	地元の新鮮な水産物に対する市民の親しみを醸成し、地産地消の促進、市外客への販売等の波及効果も狙います。
達成目標1	漁獲量(海面漁業)	t/年		○	海面漁業による漁獲量	漁獲量の維持により、経営体の活性化と水産物による地域の食の魅力向上を目指します。
	漁獲量(養殖漁業)	t/年		○	養殖漁業(主にかき、のり)による漁獲量	漁獲量の維持により、経営体の活性化と水産物による地域の食の魅力向上を目指します。
達成目標2	新規就業者数	人/年		○	新たに漁業者として就業した人の数	新規就業者及び後継者の確保により、漁業の維持・活性化を図ります。
	漁業体験者数	人/年		○	漁業体験や学習会へ参加した人の数	漁業の実態や取り巻く環境等への理解を促進し、水産物の消費拡大及び支援意識の醸成、ひいては後継者の確保に向けた機運を高めます。
達成目標3	直売所の販売額(道の駅・大島朝市・神外朝市)	千円		○	直売所の販売額(道の駅・大島朝市・神外朝市)	直売所や各種イベントを通じて、旬の地魚や瀬戸内海の魅力をPRし、水産物の消費拡大を図ります。

1-5 観光振興

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	観光客数（1～12月）	万人／年	○		笠岡市を訪れる観光客の年間人数	国内外から多くの観光客が笠岡市を訪れることで、観光産業の発展と経済効果を目指します。
達成目標 1	かさおかブランド認定件数	件	○		かさおかブランドの認定資源数	地域が誇る資源を発掘し、広く周知することで、観光客の誘客と経済効果を目指します。
	カプトガニ博物館入場者数	人／年	○		博物館の年間入館者数	入館者の増加により、観光客の誘客と経済効果を目指します。
	竹喬美術館入場者数	人／年		○	展覧会等の年間利用者数	入館者の増加により、観光客の誘客と経済効果を目指します。
	修学旅行誘致件数	校／年	○		笠岡市を訪れる修学旅行の年間件数	多くの学生が笠岡諸島を訪れることで、交流人口の増加と地域活性化を目指します。
達成目標 2	笠岡市地域産業魅力づくり応援事業（観光商品・観光サービス開拓事業）	件／年		○	観光に関する補助金の年間利用者数	観光関連事業者を支援することで、観光客の受け皿整備と地域資源の魅力向上を目指します。
	宿泊施設数	軒	○		笠岡市内の宿泊施設数	宿泊施設の整備を支援することで、滞在型観光客の増加を目指します。
達成目標 3	観光資料配布数	部／年	○		笠岡市観光連盟の年間資料配布数	積極的に情報発信を行うことで、より広範な周知と認知度の向上を目指します。
	観光ホームページアクセス数	件／年	○		笠岡市観光連盟ホームページの年間アクセス数	積極的に情報発信を行うことで、より広範な周知と認知度の向上を目指します。
達成目標 4	来場者数（1～12月）	千人／年	○		道の駅の年間来場者数	多くの来場者が道の駅を訪れることで、交流人口の増加と経済効果を目指します。
	販売額（1～12月）	千円	○		道の駅の年間販売額	地域産品の販売が増加することで、地域産業の活性化と出荷者の所得向上を目指します。

1-6 干拓地農業の活性化

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	農業事業所数（経済センサス統計調査）※笠岡湾干拓地内	事業所	○		笠岡湾干拓地内の農業事業所の数	農業法人の誘致等により農業の活性化、農地の集約化を図ります。
	従業者数（経済センサス統計調査）※笠岡湾干拓地内	人	○		笠岡湾干拓地内の農業従業者の数	農業従業者の増加により、笠岡湾干拓の有効活用と干拓地農業の活性化を図ります。
達成目標 1	耕作面積 ※干拓地の作付調査（年2回調査合計値）	ha	○		笠岡湾干拓地の耕作面積の合計	耕作面積を増やし、産地としての強化、干拓ブランドの確立を目指します。
	農業法人数	法人	○		市内農業法人の数	農業法人の増加により、農地の集積化及び効率的な農業振興を目指します。
達成目標 2	道の駅来場者数（1～12月）	千人／年	○		道の駅の年間来場者数	多くの来場者が道の駅を訪れることで、交流人口の増加と市内への波及効果を目指します。
	視察の受け入れ件数	件／年	○		笠岡湾干拓地内への視察の受け入れ件数	視察受け入れ件数の増加により、民間における事業交流の活性化、農家と市民との交流、干拓地の有効利用の周知等を目指します。
達成目標 3	共同堆肥舎の牛糞堆肥搬出量	t／年		○	共同堆肥舎から搬出される牛糞堆肥の量の合計	良質堆肥を生産し、自給飼料の増産や耕畜連携の推進強化を行い、循環型資源の活用を目指します。
	寺間遊水池のCOD	mg/L		○	寺間遊水池の水質調査におけるCOD濃度	寺間遊水池内のCOD濃度を抑制することにより、自然環境及び生活環境の維持を図ります。

第2章 活性化戦略

2-1 魅力的で快適に暮らせる都市形成

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	人口集中地区の人口比率 (国勢調査基準に準ずる)	%	○		人口集中地区における人口の占める割合	人口集中地区に居住の誘導を図ることにより、中心市街地等の賑わいを取り戻します。
	「公共交通の利便性の向上」の満足度(市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	利用しやすい公共交通システムの確立を図り、移住・定住や地域経済の活性化を促進します。
	「調和のとれた土地利用」の満足度(市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	調和のとれた土地利用を図り、移住・定住や地域経済の活性化を促進します。
達成目標1	「公共交通の利便性の向上」の満足度(市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	利用しやすい公共交通システムの確立を図り、移住・定住や地域経済の活性化を促進します。
	地域公共交通の利用者数	千人/年	○		路線バス、旅客船、鉄道利用者の合計	公共交通の連携を図ることによる交流人口の増加を目指します。
達成目標2	笠岡港工業用地以外での新規操業開始企業数	企業/年		○	笠岡港工業用地以外で新規操業を開始した企業数	企業誘致等により、新規操業を開始する企業を増やし、市民の働く場の創出を目指します。
	事業用地造成促進奨励金支給件数	件		○	事業用地造成奨励金の支給件数	民間による事業用地の造成を図ることで、企業誘致等につなげ、市民の働く場の創出を目指します。

2-2 定住・住宅対策

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	社会動態人口年間増減数	人/年	○		転入者と転出者の差	若い世代の転入促進、転出抑制により、社会動態だけではなく出生数の増など自然動態の改善を図り、人口増につなげます。
	20～39歳の女性婚姻率	%	○		20～39歳の女性婚姻数/年末総人口	若い女性の未婚化・晩婚化を解消し、希望する子どもの数を持てる環境整備を行うことにより、出生数の増につなげます。
	これからも笠岡市に住みたいと感じている市民の割合(市民意識調査)	%	○		市民意識調査による回答	市民が笠岡に愛着を持ち、笠岡市の一員としてまちづくりに参加してもらえるような「シビックプライド」の醸成を図ります。
達成目標1	若者会議参加登録者数	人	○		若者会議参加者名簿への登録人数	笠岡の仲間とつながる場を提供し、自らの手で若者が住みやすいまちづくりを進めることにより、地元定着を促します。
	若者会議延べ参加者数	人	○		月1回の全体会議への参加延べ人数	若者会議の場で、まちづくりについて学び、未来の笠岡を考えることにより、地域の新たな担い手を育成します。
	地域おこし協力隊員数	人	○		委嘱した隊員の延べ人数	外部からの多様な人材を積極的に受け入れ、育成し、連携・協働することで、地域の活性化を図ります。
達成目標2	結婚応援イベント参加人数	人/年	○		イベント参加者の延べ人数	結婚を考える独身男女に出会いの場を提供し、未婚化・晩婚化の解消を図ることにより、人口増、出生数増につなげます。
	新婚世帯家賃助成新規交付件数	件/年	○		助成金の新規交付件数	若い世代の結婚に対する経済的負担軽減により、結婚・定住を促進し、まちのにぎわいと経済活性化を図ります。
達成目標3	住宅新築助成金交付件数	件/年	○		助成金の交付件数	子育て世代の市内への住宅新築を促進することにより、定住促進と転出抑制を図り、人口増につなげます。
	空き家バンク物件契約件数	件/年	○		空き家バンク登録物件の契約件数	空き家の利活用を促進するとともに、市内への定住促進による地域の活性化を図ります。
	定住化土地造成促進奨励金	件/年	○		奨励金の交付件数	民間活力による住宅用地造成を誘導し、定住を促進することにより、地域活性化、市民生活の安定と向上を図ります。

2-3 道路ネットワーク及び港湾・漁港の整備

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	「道路の整備」の満足度 (市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	道路の適切な施設管理や更新事業をすることで、利用者が円滑に安全に安心して利用できる環境を整備します。
	「港湾・漁港の整備」の満足度 (市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	港湾・漁港施設の改良や新設整備を行い、安全で利便性の高い港湾・漁港施設環境を目指します。
達成目標 1	「道路の整備」の満足度 (市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	道路の適切な施設管理や更新事業をすることで、利用者が円滑に安全に安心して利用できる環境を整備します。
	修繕橋梁数(累計)	橋	○		点検で補修等の必要性が見つかった橋梁のうち、対策工事が完了した橋梁数	点検結果に基づく早期補修を計画的に行う「予防保全型の維持管理」を実施することで、橋梁の長寿命化を図り、維持管理及び更新費用の縮減と平準化を図り、道路ネットワークの安全性・信頼性の確保を目指します。
達成目標 2	港湾施設長寿命化実施率	%	○		点検で補修等の必要性が見つかった港湾施設のうち、対策工事が完了した施設の割合	点検結果に基づく早期補修を計画的に行う「予防保全型の維持管理」を実施することで、港湾施設の長寿命化を図り、維持管理及び更新費用の縮減と平準化を図り、港湾施設の安全性・信頼性の確保を目指します。
	漁港施設長寿命化実施率	%	○		点検で補修等の必要性が見つかった漁港施設のうち、対策工事が完了した施設の割合	点検結果に基づく早期補修を計画的に行う「予防保全型の維持管理」を実施することで漁港施設の長寿命化を図り、維持管理及び更新費用の縮減と平準化を図り、漁港施設の安全性・信頼性の確保を目指します。

2-4 利用しやすい公共交通システムの構築

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	地域公共交通の利用者数	千人/年	○		路線バス、旅客船、鉄道利用者の合計	公共交通の連携を図ることによる交流人口の増加を目指します。
達成目標 1	路線バス等の利用人数	人/年		○	路線バス・デマンド型乗合タクシーの利用人数	人口減少社会にあっても利用促進施策を実施して路線バスの利用人数を維持し、公共交通の確保・維持を図ります。
	路線バス運行に係る市の負担額の水準維持	千円		○	路線バス運行に係る市の実質負担額	利用人数の確保を図り、市の実質負担額を抑えることで、公共交通の確保・維持を図ります。
達成目標 2	旅客船の利用人数	人/年		○	旅客船の利用人数	人口減少社会にあっても利用促進施策を実施して旅客船の利用人数を維持し、公共交通の確保・維持を図ります。

2-5 離島振興

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	離島の人口減少の割合 (対前年比)	%		○	離島の人口減少の対前年比の割合	人口減少の対前年比の割合を維持することにより、島民が住み慣れた島で暮らし続けられることを目指します。
達成目標 1	「離島の振興」の満足度 (市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	市民意識調査の満足度を高めることにより、笠岡諸島の活性化を目指します。
達成目標 2	健康長寿愛らんど事業への参加者	人/年		○	参加した高齢者の人数	参加者を維持し、閉じこもりがちになりやすい高齢者の社会的な孤立感の解消と、高齢者間の交流を通しての高齢者の介護予防および生きがいづくりを目指します。
	旅客船の利用人数	人/年		○	旅客船の利用人数	人口減少社会にあっても利用促進施策を実施して旅客船の利用人数を維持し、公共交通の確保・維持を図ります。
達成目標 3	北木島宿泊研修所「石切りの杜」利用者数	人/年	○		北木島宿泊研修所「石切りの杜」利用者数	島の特色ある海や北木石といった自然資源による学習や交流を通じて、青少年の健全育成を図るとともに、笠岡諸島の活性化を目指します。
	交通空白地有償運送の利用者数	人/年		○	交通空白地有償運送の利用者数	利用者を維持することにより、島しょ部に暮らす人の移動手段の確保を目指します。

2-6 市民参画・協働の推進

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	まちづくり協議会の認知率（市民意識調査）	%	○		市民意識調査による回答	市民のまちづくり協議会に対する理解を深めることで、より多くの市民にまちづくりへ参加してもらうことを目指します。
	市民活動支援センター登録志願型組織数	団体	○		市民活動支援センターに登録している団体数	市民活動を行う団体が増加することで、地域住民の身近なところで地域課題が解決できる環境づくりにつなげます。
達成目標 1	まちづくり協議会の活動への参加率（市民意識調査）	%	○		市民意識調査による回答	市民のまちづくり協議会への参加を促すことで、地域をより暮らしやすいものにしていきます。
	地域のまちづくり計画を策定した協議会数	地区	○		地域のまちづくり計画（初版）を策定した協議会数	それぞれの地域の特色を活かした将来像を作り共有することで、持続的なまちづくりを可能にします。
達成目標 2	NPO法人数	団体	○		笠岡市内に主な事務所を置くNPO法人数	NPO法人の増加により、住みやすく住み続けたい笠岡の実現につなげます。
	志願型団体協働のまちづくり事業補助金の交付件数	件/年	○		志願型団体補助金の延べ交付件数	事業立ち上げ期の支援を行うことで、早期に事業を軌道に乗せ、地域課題への効果的な対応を目指します。
	市民活動支援センター利用者数	人/年	○		市民活動支援センターの施設利用や相談を行った利用者数	利用者数の増加により市民活動の活性化につなげ、住みよい地域社会の実現を図ります。
	市民活動支援センターが実施する研修会や講座への参加者数	人/年	○		市民活動支援センターが実施する研修会や講座への参加者数	市民活動や協働に関する住民理解を広め、活動参加への理解と興味を促すことで、市民活動の活発化を目指します。
達成目標 3	市民活動総合補償保険の利用件数	件/年		○	市民活動総合補償保険の利用件数	市民活動によるケガなどは活動の頻度に比例すると考えられることから、利用件数の維持に努め、市民活動の活発化を目指します。
達成目標 3	地域担当職員延べ経験者数	人	○		地域担当職員を経験した市職員の数	地域担当職員を経験した市職員の増加により、地域における課題の解決や魅力ある地域づくりについての支援を図ります。

2-7 多様な交流の促進

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	語学事業及び国際交流事業の年間参加者数	人/年	○		語学事業と国際交流事業に参加した人数	本市における国際交流の状況を把握します。参加者数を増やすことで、多文化共生社会の推進を目指します。
	大田市交流事業の年間参加者数	人/年	○		大田市との交流事業に参加した人数	友好都市縁組を締結している大田市との交流事業の参加者を把握します。参加者数を増やすことで、交流の活性化を目指します。
達成目標 1	語学事業及び国際交流事業の年間参加者数（日本語講座・日本語指導ボランティア養成講座を除く）	人/年	○		語学事業と国際交流事業に参加した人数から日本語講座・日本語指導ボランティア養成講座に参加した人数を除いたもの	年間参加者数の増加により、国際理解の促進及び交流の活性化を目指します。
	白石島国際交流ヴィラ年間宿泊者数	人/年	○		白石島国際交流ヴィラに宿泊した人数	年間宿泊者数の増加により、外国人との交流機会の増加及び地域活性化を目指します。
達成目標 2	日本語講座受講者数	人/年	○		日本語講座を受講した人数	笠岡で暮らす外国人が生活するために必要な支援の機会を増やし、市民の多様な交流機会の増加を目指します。
	日本語指導ボランティア養成講座受講者数	人/年	○		日本語指導ボランティア養成講座を受講した人数	笠岡で暮らす外国人が生活するために必要な支援の機会を増やし、市民の多様な交流機会の増加を目指します。
達成目標 3	大田市交流事業の年間参加者数	人/年	○		大田市との交流事業に参加した人数	友好都市縁組を締結している大田市との交流事業の参加者を把握します。参加者数を増やすことで、交流の活性化を目指します。

2-8 広域連携の推進

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	3 圏域（高梁川流域圏、備後圏域、井笠圏域）での連携事業数	事業	○		高梁川流域圏、備後圏域、井笠圏域の3圏域で連携する事業の合計	広域的で利便性の高い行政サービスの提供に努め、圏域からの人口流出の抑制を目指します。
達成目標 1	高梁川流域圏での連携事業数	事業	○		高梁川流域圏の7市3町で連携する事業の数	広域的で利便性の高い行政サービスの提供に努め、圏域からの人口流出の抑制を目指します。
	備後圏域での連携事業数	事業	○		備後圏域の6市2町で連携する事業の数	広域的で利便性の高い行政サービスの提供に努め、圏域からの人口流出の抑制を目指します。
	井笠圏域での連携事業数	事業	○		井笠圏域の3市2町で連携する事業の数	圏域全体の活性化に努め、圏域からの人口流出の抑制を目指します。
達成目標 2	地域創生コモンズかさおかを拠点とした域学連携事業参加者	人/年	○		地域創生コモンズかさおかを拠点とした域学連携事業参加者数	域学連携への参加者増加を図ることで、交流人口の増加を目指します。

第3章 未来戦略

3-1 子ども・子育て環境の整備

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	安心して子どもを産み育てられると感じている市民の割合（市民意識調査）	%	○		市民意識調査による回答	安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進め、子育てを地域や社会全体で支えるまちを実現することで、子育て家庭の満足度の向上を図り定住を促します。
	年度末における5歳児の人口と5年前の0歳児の人口を比較した増減割合	%	○		0歳児における5年後の人口動態の増減割合	子育てしやすいまちづくりを進め、乳幼児を持つ子育て世代の転出抑制、転入促進を図り、人口減少の抑制と地域の活性化を目指します。
達成目標1	妊娠11週以下で妊娠届出をする妊婦	%		○	妊娠11週以下で妊娠届出を行う妊婦の割合	妊娠初期に妊娠届出を行う妊婦の割合の維持により、早期から健康管理が行われ、安全な出産と健やかな育児につなげることを目指します。
	子育て意識啓発のための講座を受講した人	人/年		○	若い世代の意識啓発事業と、コモンセンス・ペアレンティング（子育て技法）への参加者数	将来子どもを産み育てることへの意識啓発や親育ちを支援する機会を設けることで、子育て不安の解消と子どもの健やかな成長を促すことを目指します。
達成目標2	子育てコンシェルジュ利用件数	件/年		○	子育て支援コンシェルジュの利用数	子育て支援事業を円滑に利用できるよう支援に努め、保護者の育児ストレス等の負担軽減を図ることを目指します。
達成目標3	保育所（園）・認定こども園（保育所部分）・事業所内保育（地域枠）定員	人		○	公立・私立保育所（園）、認定こども園（保育所部分）、事業所内保育（地域枠）の定員数	保育を必要とする児童に対して受け皿を確保し、待機児童0人を維持することを目指します。

3-2 学校教育の充実

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	自分にはよいところがあると思う児童の割合	%	○		全国学力・学習状況調査の結果	児童の意識の把握に努め、自己肯定感や自己有用感の高い児童の育成を目指します。
	自分にはよいところがあると思う生徒の割合	%	○		全国学力・学習状況調査の結果	児童の意識の把握に努め、自己肯定感や自己有用感の高い生徒の育成を目指します。
達成目標1	児童の地域行事への参加率	%	○		全国学力・学習状況調査の結果	地域行事への参加を促進し、郷土への愛着心を持つ児童の育成を目指します。
	生徒の地域行事への参加率	%	○		全国学力・学習状況調査の結果	地域行事への参加を促進し、郷土への愛着心を持つ生徒の育成を目指します。
	コミュニティ・スクール実施学校数	校	○		実施校	実施校の増加により、地域ぐるみで学校教育を推進する仕組みの構築を目指します。
達成目標2	小学校全国学力・学習状況調査国語A問題の全国正答率との差	ポイント	○		全国学力・学習状況調査の結果	正答率を高め、基本的な知識・技能を習得した児童の育成を目指します。
	小学校全国学力・学習状況調査算数A問題の全国正答率との差	ポイント	○		全国学力・学習状況調査の結果	正答率を高め、基本的な知識・技能を習得した児童の育成を目指します。
	中学校全国学力・学習状況調査国語A問題の全国正答率との差	ポイント	○		全国学力・学習状況調査の結果	正答率を高め、基本的な知識・技能を習得した生徒の育成を目指します。
	中学校全国学力・学習状況調査数学A問題の全国正答率との差	ポイント	○		全国学力・学習状況調査の結果	正答率を高め、基本的な知識・技能を習得した生徒の育成を目指します。
	中学校検定チャレンジ事業における「中学校卒業程度」級合格者（全中学生に占める割合）	%	○		3級以上合格者数	合格者を増やし、高い学力を身につける意欲を持った生徒の育成を目指します。
達成目標3	西備支援学校・笠岡学園・社会福祉施設との交流学习を実施する学校	%	○		交流学习の実施校	実施校を増やし、豊かな人間性を身につけた児童生徒の育成を目指します。
達成目標4	小中一貫教育の実施	校	○		小中一貫教育の実施校	小中一貫教育の実施により、義務教育課程9年間を通して主体的・対話的で深い学びを実現する教育の構築を目指します。

3-3 生涯学習の推進

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	まちづくり出前講座受講者数	人/年	○		まちづくり出前講座の受講者数	受講者数の増加により、市民の自主的な生涯学習活動の支援を目指します。
	「生涯にわたって学習できる環境づくり」の満足度（市民意識調査）	%	○		市民意識調査での満足度	満足度を高め、市民がいつでも、どこでも、自由に学ぶことができ、その成果が適切に活かされる生涯学習社会の構築を目指します。
達成目標 1	公民館で行う講座数	講座	○		中央公民館及び地区公民館で行っている講座数	講座数を増やすことで、多様化する市民の要望に対応するとともに、より多くの市民に学習・交流の場を提供し、生涯学習の輪が広がることを目指します。
	図書館への来館者数	人/年	○		図書館への来館者数	来館者数の増加により、多様な学習機会を提供するとともに、市民が気軽に集える施設を目指します。
達成目標 2	生涯学習フェスティバル参加者数	人/年	○		生涯学習フェスティバルの参加者数	市民の生涯学習活動の成果を発表する場を提供することで、生涯学習への意欲の高揚を図るとともに、生涯学習活動への参加を促します。
	まちづくり出前講座開催数	回/年	○		まちづくり出前講座の開催数	出前講座を開催し、市民の自主的な生涯学習活動の支援を目指します。
達成目標 3	放課後子ども教室等の実施団体数	団体		○	放課後子ども教室等の実施団体数	地域ぐるみで児童の放課後や土曜日における学習支援や社会体験を提供する体制を整備し、家庭教育を支援します。
	街頭補導活動中の声かけ件数	人/年		○	街頭補導活動中の声かけ件数	関係機関・団体との連携を強化し、地域ぐるみで見守り活動を実施することで青少年の健全育成を推進します。
達成目標 4	子どもフェスティバル参加者数	人/年		○	子どもフェスティバルの参加者数	関係機関・団体との協働によって子どもが気軽に楽しめるレクリエーションを提供し、親子のふれあいや参加者の親睦を深めます。また、中学生、高校生、大学生、一般のボランティアスタッフを集い、ボランティア精神の醸成を図ります。
	学校支援活動への参加者数	人/年		○	学校支援活動への参加者数	学校への支援活動を通じて、地域住民、学校関係者、保護者等の連携を深め、地域ぐるみの教育支援を行うとともに、市民の知恵や経験をまちづくりに活用できる場を提供します。

3-4 スポーツの振興

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	各種スポーツ大会・教室の参加者数（市民体育大会・教室）	人/年	○		市民体育大会、各種スポーツ教室の参加者数	各種スポーツ大会・教室の参加者数を増加させ、多くの市民が豊かなスポーツライフを送る環境を目指します。
達成目標 1	週1回以上スポーツをしている人の割合（市民意識調査）	%	○		市民意識調査による回答	各種スポーツイベントの実施やスポーツ情報の提供に努め、成人のスポーツ実施率を上げ、健康で生きがいを持った人生を送る市民を増やします。
	小・中学生の体力テスト（国・市比較）	%	○		小・中学生の全国体力・運動能力調査結果の国平均と市平均の比較	各種スポーツ大会・教室を実施し、小・中学生の体力・運動能力の向上に努め、健康で進んでスポーツを楽しむ生徒の増加を図ります。
	総合型地域スポーツクラブ会員数	人	○		笠岡総合スポーツクラブの会員数	会員数の増加に向けてクラブの成果と課題を検証し、身近にスポーツに親しむことができるクラブの推進を図ります。
達成目標 2	全国・世界大会延べ出場者数	人/年	○		スポーツ競技の全国大会に出場した選手数	全国大会以上の大会に出場する団体・選手を支援、情報提供に努め、市民の競技スポーツへの意識を高揚し、競技レベルの向上を図ります。
達成目標 3	市内体育施設の利用人数	人/年	○		運動公園、総合スポーツ公園、茂平運動公園、古代の丘スポーツ公園の利用人数	市民が利用しやすい施設運営に努め、生涯スポーツに親しみ、健康で生きがいを持った人生を送る市民の増加を図ります。

3-5 歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	博物館等総入館者数	人/年	○		博物館, 美術館, 郷土館, 鉄道記念館入館者	カブトガニや芸術, 歴史にふれる場所を提供することで, 市民の文化向上と本市の文化発信を目指します。
	館事業・文化事業総参加者数	人/年		○	博物館, 美術館, 芸術文化等事業参加者数	カブトガニや芸術, 歴史にふれる機会を提供することで, 市民の文化向上を目指します。
達成目標 1	文化財保護・調査件数	件/年		○	文化財を調査・保護・収集した件数	かけがえのない文化財を保護することで, 笠岡市の歴史と伝統を後世に伝え, 文化に対する意識向上を目指します。
	文化財普及・活用件数	件/年		○	文化財を公開・普及・活用した件数	文化財の公開活用を進めて郷土の歴史と魅力を再発見する機会を提供し, 地域への愛着を深めることを目指します。
達成目標 2	竹喬美術館入館者数	人/年		○	展覧会等の年間利用者数	入館者数の増加を図り, 市民の文化向上と本市の文化発信を目指します。
	竹喬美術館館藏品数	点	○		寄贈・購入による年間収蔵作品数	収蔵作品数を増加し, 小野竹喬の美術館として, また岡山・京都の近代日本画の拠点となる収蔵品の形成を目指します。
達成目標 3	文化事業参加者数	人/年		○	市美展等の文化事業参加者数の合計	文化芸術活動への参加により, 笠岡市の文化向上と市民の心の充実を目指します。
	笠岡市木山捷平文学選奨への応募者数	人/年		○	文学選奨各部門への応募者数の合計	全国へ笠岡市の情報を発信するとともに, 市民の文芸創作活動を奨励し, 文化的風土を育むことを目指します。
達成目標 4	カブトガニ自然産卵確認箇所数	箇所/年	○		カブトガニの自然産卵箇所数の合計	自然産卵箇所数を増加し, 自然界でのカブトガニの産卵の増加と生息環境の維持を目指します。
	カブトガニ博物館入館者数	人/年	○		博物館の年間入館者数	入館者数の増加を図り, 市民の文化向上と本市の文化発信を目指します。

3-6 人権・男女共同参画・平和

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	「人権尊重・男女共同参画の推進」の満足度 (市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	満足度の把握・向上により, お互いがお互いの人権等を尊重して生活するまちづくりを目指します。
	審議会等委員に占める女性の割合	%		○	市役所が設置する審議会等で, 全委員のうち的女性委員の割合	女性委員の割合の維持により, 男女の意見が平等に市の施策に反映されることを目指します。
	「平和の取組」の満足度 (市民意識調査)	%	○		市民意識調査での満足度	満足度の把握・向上により, 平和への関心を高め, 恒久平和を次世代に引き継いでいくことを目指します。
達成目標 1	人権週間のつどいのアンケートで人権問題について関心や理解が「とても深まった」「深まった」という回答の割合	%		○	人権週間のつどい参加者のアンケートで「とても深まった」「深まった」と回答した割合	市民の人権問題に対する関心や理解の状況を把握し, 人権問題を自分の問題として正しく理解し, 豊かな人権感覚を身につけることを目指します。
	吉田文化会館利用者数	人/年	○		文化会館の年間利用者数	利用者数の増加により, 住民交流の拠点となる開かれたコミュニティセンターとなることを目指します。
達成目標 2	審議会等委員に占める女性の割合	%		○	市役所が設置する審議会等で, 全委員のうち的女性委員の割合	女性委員の割合の維持により, 男女の意見が平等に市の施策に反映されることを目指します。
達成目標 3	平和祭参加者のアンケートで「とてもよかった」「よかった」という回答の割合	%		○	平和祭参加者のアンケートで「とてもよかった」「よかった」と回答した割合	満足度の把握・向上により, 平和への関心を高め, 恒久平和を次世代に引き継いでいくことを目指します。

第4章 安定戦略

4-1 地域福祉の推進

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	地域見守り活動に関する協定の締結団体数	団体	○		見守り協定を結んだ団体数の合計	協定の締結団体数の増加により、貧困や虐待、介護放棄、孤立死等、多様化した地域課題を早期発見できる地域を目指します。
	「地域福祉活動の推進」の満足度（市民意識調査）	%	○		市民意識調査での満足度	全世代全対象のニーズに対して包括的な相談支援ができるシステムを構築することで、市民が安心して生活できる地域を目指します。
達成目標 1	生活支援サービス団体数	団体	○		「暮らしサポート手帳」へ掲載している団体数	生活支援サービス団体の増加により、公的福祉サービスでは解決できないちょっとした困りごとを地域の住民同士が助け合える地域を目指します。
	在宅での看取りに対応する病院・診療所数	箇所	○		厚生労働省データ「在宅での看取りに対する病院・診療所」の数	在宅での看取りに対応する病院・診療所の増加により、在宅療養を希望する市民が、できる限り在宅での生活を継続できる在宅診療体制の構築を目指します。
	在宅での看取りの割合	%		○	厚生労働省データ「地域内での看取りの割合」の数	在宅での看取りの割合を維持し、在宅生活が1日でも長く継続できる地域を目指します。
	施設入所の割合	%		○	要介護5の認定者における施設入所者の割合	ICTや連携シートを活用した医療・介護の連携を構築することにより、在宅生活が1日でも長く継続できる地域を目指します。

4-2 健康づくり

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	健康寿命（男性）	年	○		市民（男性）の日常生活動作が自立している期間	健康寿命の延伸により、誰もがいきいきと心豊かに暮らせるまちを目指します。
	健康寿命（女性）	年	○		市民（女性）の日常生活動作が自立している期間	健康寿命の延伸により、誰もがいきいきと心豊かに暮らせるまちを目指します。
	平均寿命（男性）	年	○		市民（男性）の平均寿命	平均寿命の延伸により、健康長寿のまちを目指します。
	平均寿命（女性）	年	○		市民（女性）の平均寿命	平均寿命の延伸により、健康長寿のまちを目指します。
達成目標 1	運動習慣者の増加	%	○		特定健康診査受診者のうち、運動習慣がある人の割合	運動習慣の定着により、生活習慣病の予防や重症化を予防し、できる限り自立した生活を送ることができる人が増えることで、健康寿命の延伸を目指します。
	健康ポイント事業への参加者	人/年	○		健康ポイント事業の参加者数	健診受診や健康に関係する取組等を通して、市民の健康づくりへの意識を高めることを目指します。
達成目標 2	特定健康診査の受診率	%	○		特定健康診査の受診者の割合	健診を受けることで生活習慣病の早期発見・早期治療につなげ、病気の重症化を予防し、できる限り自立した生活を送れる人が増えることで、健康寿命の延伸を目指します。
	メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合	%		○	特定健康診査受診者のうち、メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合	生活習慣病の予防や重症化を予防し、できる限り自立した生活を送ることができる人が増えることで、健康寿命の延伸を目指します。
	糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者の数	人/年		○	糖尿病性腎症患者のうち、新たに透析を導入した患者数	高額な透析治療への移行を予防又は遅らせることで、対象者のQOLの向上や医療費の削減を目指します。

4-3 医療・救急体制の整備

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか	
		増加	維持	減少			
総合指標	救急出動件数(人口1万人当たり)	件/年			○	笠岡地区消防組合管内の人口1万人当たりの救急出動件数	救急車の適正利用を推進し、限られた救急車の有効活用を図り、管内の救命率の向上を目指します。
	救命講習会を受講したことがある人の割合(管内人口に対する割合)	%	○			笠岡地区消防組合の管内人口に対する救命講習受講者の割合	救急車が到着するまでの時間に、その場に居合わせた人が適切な応急手当ができるよう、家庭に1人以上の受講者の育成を目指します。
達成目標1	休日当番医(医科)の診療科目数	科目			○	休日の救急患者に対応する医療機関の診療科目数	診療科目数を維持し、休日における救急患者の医療の確保を目指します。
	二次救急医療の診療科目数	科目			○	休日に重症救急患者に対応する医療機関の診療科目数	診療科目数を維持し、休日における重症救急患者の医療の確保を目指します。
	管内医療機関への収容率	%	○			笠岡地区消防組合管内の医療機関への傷病者収容率	救急患者の管内医療機関への収容率を向上させ、病院収容の時間短縮を図ります。
	救急活動症例検討会等への救急隊員1人当たりの参加時間	時間	○			救急活動症例検討会等への救急隊員1人当たりの参加時間	医学的知識や技術の維持向上に取り組み、救急隊員のスキルアップを図ります。
達成目標2	島しょ部診療所(医科・歯科)数	箇所			○	島しょ部における診療所の数	診療所の数を維持し、島しょ部における医療の確保を目指します。
	救急隊が救急患者へ接触するまでの時間	分			○	島しょ部の救急車で、救急隊が救急患者へ接触するまでに要する時間	救急隊の救急患者への接触時間を短縮し、早期に観察等が行える体制を目指します。
達成目標3	医業収支比率	%	○			医業収支の比率	市民病院の経営改善を図り、累積欠損金の縮減を行います。
	経常収支比率	%	○			経常収支の比率	市民病院の経営改善を図り、累積欠損金の縮減を行います。
達成目標4	救命講習会の参加者数	人/年			○	笠岡地区消防組合が開催する救命講習会の参加者数	救急車が到着するまでの時間に、その場に居合わせた人が適切な応急手当ができるよう、家庭に1人以上の受講者の育成を目指します。
	心肺蘇生法、AED取扱指導受講者数	人/年			○	笠岡地区消防組合が開催する心肺蘇生法、AED取扱指導の受講者数	救急車が到着するまでの時間に、その場に居合わせた人が適切な応急手当ができるよう、家庭に1人以上の受講者の育成を目指します。
	救マーク認定事業所数	事業所			○	笠岡地区消防組合管内の救マーク認定事業所数	救マーク事業の認定を推進し、応急手当の普及促進を目指します。
	救急搬送人員に占める軽症者の割合	%			○	笠岡地区消防組合管内の救急搬送人員に占める軽症者の割合	緊急性の低い軽症者の出動件数を減らし、限られた救急車の有効活用を図り管内の救命率の向上を目指します。

4-4 障がい者・障がい児福祉の充実

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか	
		増加	維持	減少			
総合指標	年間相談支援件数	件/年	○			生活支援など相談のあった人数	相談支援件数の把握により、相談支援事業のニーズ量を把握するとともに、件数の増加に努め、障がい者サービスの推進につなげます。
	「障がい者福祉の充実」の満足度(市民意識調査)	%	○			市民意識調査での満足度	満足度の把握・向上により、障がい者・障がい児が、必要とする障がい福祉サービス・障がい児通所支援サービス等の支援を受けつつ、住み慣れた地域社会で自立して生活できるよう努めます。
達成目標1	理解を深める研修、支援者の事例検討会等への参加者数	人/年			○	研修会、事例検討会等へ参加した人の人数	参加者数の維持により、民生児童委員、市職員、支援者の障害についての理解を深める取組の状況を把握し、障害について正しく理解し、人権を尊重し認め合う地域づくりを目指します。
	障害関連イベント参加者数	人/年			○	障害関連イベントに参加した人数	参加者数の維持により、イベントをきっかけとした障がい者の社会参加を推進します。
達成目標2	訪問系サービスの月間実利用者数	人/月			○	1月当たりの訪問系サービスの利用者数	利用者数の維持により、笠岡市障がい福祉計画の推進、障がい者サービスの充足を図ります。
	日中活動系サービスの月間実利用者数	人/月			○	1月当たりの日中活動系サービスの利用者数	利用者数の維持により、笠岡市障がい福祉計画の推進、障がい者サービスの充足を図ります。
	障がい児通所支援の月間実利用者数	人/月			○	1月当たりの障がい児通所支援サービスの利用者数	利用者数の維持に向けて、健やかな成長を保障するため適切なサービス提供に努め、障がい児の自立を促進します。
	就労支援を利用して、一般就労に移行した延べ人数	人	○			福祉施設を利用している人のうち職に就いた延べ人数	障がい者の就労状況を把握し、障がい者の地域生活への移行を図ります。
達成目標3	公共施設の新規バリアフリー化件数	件/年			○	公共施設をバリアフリー化した件数	公共施設のバリアフリー化により、安全かつ円滑に利用できるような施設等の整備を図ります。

4-5 高齢者福祉・介護の充実

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	要介護認定率	%		○	65歳以上の高齢者の要介護認定率	高齢者の自立支援に取り組み、介護保険の認定者数を増やさないことにより、住み慣れた地域で自立した生活を継続できる福祉のまち笠岡を目指します。
達成目標 1	75歳以上世帯の実態把握件数	件	○		高齢者世帯の実態把握件数	高齢者世帯の実態把握により、ニーズに対応した相談が適切に行われ、必要な支援が得られるまちを目指します。
	認知症サポーター延べ養成数	人	○		サポーター養成講座に参加した人数	認知症サポーター養成数の増加により、認知症への理解を深めるとともに、当事者が早期発見、早期治療できる体制づくりを目指します。
達成目標 2	いきいき百歳体操の実施箇所数	箇所		○	いきいき百歳体操の実施箇所数	介護予防への取組により、住み慣れた地域で自立した生活を継続できる福祉のまち笠岡を目指します。
	自立支援ヘルパー派遣延べ利用人数	人		○	自立支援ヘルパー派遣延べ利用人数	高齢者の自立支援に取り組み、住み慣れた地域で自立した生活を継続できる福祉のまち笠岡を目指します。
	緊急通報装置設置台数	台		○	緊急通報装置設置台数	緊急通報体制の充実により、独居高齢者の安全安心な暮らしを目指します。
達成目標 3	島しょ部にある介護事業者数＋島しょ部訪問事業者数	事業者		○	島しょ部事業者数と島しょ部訪問事業者数	介護サービス事業を確保することにより、島しょ部で暮らし続けることができ、住み慣れた地域で自立した生活を継続できる福祉のまち笠岡を目指します。
	健康長寿愛らんど事業への参加者	人/年		○	事業に参加した高齢者の人数	参加者を維持し、閉じこもりがちになりやすい高齢者の社会的な孤立感の解消と、交流を通じた高齢者の介護予防、生きがいづくりを目指します。

4-6 社会保障

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	人口1,000人当たりの生活保護者数	人		○	人口1,000人当たりの生活保護を受給している人数	全市民のうち的生活保護者数を把握することによって、要保護者の動向を把握し、要保護者数の抑制を目指します。
	自立支援により状況が改善した生活保護世帯数	世帯/年	○		自立支援により生活改善ができた生活保護世帯の数	生活改善ができた生活保護世帯の増加により、生活保護の主目標である、保護受給世帯及び生活困窮状態にある世帯の経済的あるいは社会的な自立を目指します。
	国民健康保険年間保険給付費	億円		○	国民健康保険の年間保険給付費	医療費適正化の推進により、年間保険給付費の増加率を前年度比1%未満に抑制することを目指します。
達成目標 1	人口1,000人当たりの生活保護者数	人		○	人口1,000人当たりの生活保護を受給している人数	全市民のうち的生活保護者数を把握することによって、要保護者の動向を把握し、要保護者数の抑制を目指します。
	自立支援により状況が改善した生活保護世帯数	世帯/年	○		自立支援により生活改善ができた生活保護世帯の数	生活改善ができた生活保護世帯の増加により、生活保護の主目標である、保護受給世帯及び生活困窮状態にある世帯の経済的あるいは社会的な自立を目指します。
達成目標 2	国民健康保険年間保険給付費	億円		○	国民健康保険の年間保険給付費	医療費適正化の推進により、年間保険給付費の増加率を前年度比1%未満に抑制することを目指します。
達成目標 3	要介護認定率	%		○	65歳以上の高齢者の要介護認定率	高齢者の自立支援に取り組み、介護保険の認定者数を増やさないことにより、住み慣れた地域で自立した生活を継続できる福祉のまち笠岡を目指しています。

4-7 身近な上水道

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	水道水を安心して使用できると感じている市民(市民意識調査)	%	○		市民意識調査による回答の割合	水質基準に適合している水道水は、「安心して使用できる水道水である」と、より多くの市民に受け入れられることを目指します。
	有収率	%	○		給水量に対する有収水量の割合	有収率を上げること及びそれを維持することによって、効率的かつ安定的な事業経営を担保します。
達成目標 1	水質検査箇所密度	箇所/100km ²	○		給水区域面積 100 km ² 当たりの水質検査採水箇所数	水質基準に適合し、安全かつ良質であることを確認することで、安全性の確保とともに安心して飲める水道水を安定的に供給します。
	水質基準不適合率	%		○	全検査回数に占める水質基準不適合回数の割合	水質基準に適合し、安全かつ良質であることを確認することで、安全性の確保とともに安心して飲める水道水を安定的に供給します。
達成目標 2	配水施設(基幹配水池)耐震化率	%	○		基幹配水池において耐震対策済みの配水池容量の割合	耐震化により、災害、特に地震発生時に基幹配水池の損壊及び、被害の拡大を防ぎます。
	配水施設(管路)耐震適合率	%	○		管路における耐震適合管路の割合	耐震化により、災害、特に地震発生時に基幹配水池の損壊及び、被害の拡大を防ぎます。
	災害時応援協定締結団体数(累計)	団体	○		災害時における相互応援協定等の締結団体数の累計	災害時応援協定締結団体の増加・維持により、地震、風水害その他による災害及び水道施設の事故等の発生時において、水道施設の早期復旧を迅速かつ円滑に遂行します。
達成目標 3	収納率(現年度)	%	○		当該年度(現年)の水道料金収納率	水道事業を安定的に経営するために、事業経営の根幹である水道料金収入を確保します。

4-8 健全な下水道運営

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	汚水処理人口普及率(汚水処理施設を利用できる人口/行政人口×100)	%	○		笠岡市で汚水処理施設を使用する人の割合	水洗化を進めることで清潔で快適な生活環境を確保するとともに、公共用水域の水質保全を図ります。
達成目標 1	下水道処理人口普及率(処理区域内人口/行政人口×100)	%	○		笠岡市で下水道を利用できる人の割合	集合処理の汚水処理施設整備を進め、清潔で快適な生活環境を確保するとともに、公共用水域の水質保全を図ります。
達成目標 2	下水道ストックマネジメント計画策定進捗率	%		○	下水道施設の管理計画策定割合	老朽化した施設の状態を把握し、保全対策を行うことで施設の安全性と機能確保を図ります。
	管路施設耐震診断調査実施率	%		○	重要な管渠の耐震診断調査を行った割合	防災拠点等に直結した管渠診断を行い、対策を行うことで災害に強いまちづくりを目指します。
達成目標 3	水洗化率(水洗化人口/処理区域内人口×100)	%	○		下水道整備区域での下水道接続割合	水洗化を進めることで清潔で快適な生活環境を確保するとともに、公共用水域の水質保全を図ります。
	下水道使用料徴収率(徴収額/下水道使用料確定額×100)	%	○		下水道使用料を徴収した割合	財源確保に努めることで、健全な下水道事業運営を図ります。

4-9 消防体制の整備

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	人口1万人当たりの出火率	件		○	管内人口1万人当たりの出火件数	火災出火率を全国平均以下にすることにより、管内住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します。
達成目標1	消防施設設備の整備数(消防組合)(笠岡市消防団)	棟		○	消防庁舎等の施設数	現有施設設備の維持管理を行い、持続可能な消防体制の整備を目指します。
	消防車両等の整備数(消防組合)(笠岡市消防団)	台		○	消防車両等の整備数	現有消防車両等の維持管理を行い、持続可能な消防体制の整備を目指します。
	消防学校等派遣者数	人/年		○	消防学校、救命研修所及び各種研修機関等への職員派遣数	高度で専門的な知識・技術を習得した人材育成を行い、消防力の向上を図ります。
達成目標2	消防団員数	人		○	消防団員数	消防団員数を定数まで引き上げ、人員確保することで地域防災力を高めます。
	女性消防団員数	人		○	女性消防団員数	女性消防団員数を増加させることで、火災予防広報を推進し、災害発生時には女性ならではのきめ細かい被災者支援を目指します。
	婦人防火クラブ数	クラブ		○	自主防災組織等としてのクラブ数	クラブ数を確保するとともに、研修等に参加していただいて防火意識の高揚を図り、家庭からの火災減少を目指します。
	幼年・少年消防クラブ数	クラブ		○	自主防災組織等としてのクラブ数	幼少年期から防災意識の高揚を図るために結成を働きかけ、未来を担う子どもたちの育成を目指します。
達成目標3	住宅用火災警報器設置率	%		○	住宅用火災警報器の設置率	住宅用火災警報器の設置・維持管理を推進し、住宅火災及び火災による死者の減少を目指します。
	住宅防火診断	世帯/年		○	住宅防火診断世帯数	高齢者や要配慮者世帯を積極的に防火診断し、住宅火災及び火災による死者の減少を目指します。
達成目標4	防火対象物立入検査	棟/年		○	防火対象物立入検査棟数	年間査察計画に基づいて立入検査を行い、防火安全対策の徹底を図ります。
	危険物施設立入検査	施設/年		○	危険物施設立入検査施設数	年間査察計画に基づいて立入検査を行い、保安対策等を確認し、危険物施設での事故防止を目指します。
	重大違反防火対象物	棟		○	重大違反防火対象物棟数	重大違反対象物を是正し、防火安全対策の徹底を図ります。
	保安・防火講習受講者数	人/年		○	保安・防火講習受講者数	講習等(法定も含む)の受講により、保安・防火意識の高揚を図り、安全対策の強化を目指します。

4-10 地域防災の推進

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	防災士の人数	人		○	防災士資格取得者の数	地域における防災リーダーを増員し、地域における防災意識の高揚と非常時における統制・調整力の向上を目指します。
	家庭で防災対策をしている割合(市民意識調査)	%		○	市民意識調査による回答	各家庭に応じた防災対策を施すことにより、災害時の被害軽減を目指します。
	「自然災害への対策」の満足度(市民意識調査)	%		○	市民意識調査での満足度	満足度の把握・向上により、安心・安全に暮らせるまちを目指します。
達成目標1	食料の備蓄	食		○	非常食の備蓄数	非常食の備蓄数を増加し、災害発生時における被災者(市民)の安心、安全を確保します。
	公共建築物の耐震化率	%		○	公共建築物の耐震化の割合	公共建築物の耐震化により、災害時における業務の継続を図るとともに、被災者(市民)の安心、安全を確保します。
達成目標2	防災士の人数	人		○	防災士資格取得者の数	地域における防災リーダーを増員し、地域における防災意識の高揚と非常時における統制・調整力の向上を目指します。
	地域密着型訓練の参加者数	人/年		○	各地域における防災教室・訓練の参加延べ人数	各地域における防災教室や防災訓練の参加者を増やすことにより、市民の防災意識高揚と地域の防災力向上を目指します。
達成目標3	海岸保全施設整備率	%		○	市管理海岸のうち、施設が整備された海岸延長の割合	海岸保全施設の整備を進めることで海岸背後地を高潮から防護し、生命・財産の安全性を確保するとともに住民の安心感を高めます。
	海岸保全施設点検実施率	%		○	既設海岸保全施設のうち、長寿命化に向けた点検が完了した海岸保全施設の割合	海岸保全施設の点検を実施し総合的な評価を行うことにより、将来的に必要となる維持管理及び更新費用の縮減と平準化を図ります。

4-11 防犯・交通安全の環境づくり

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	人口千人当たりの犯罪発生件数	件/年		○	市内で発生した人口千人当たりの犯罪件数	犯罪発生件数を減らし、安心して安全に暮らせるまちを目指します。
	人口1万人当たりの交通事故(人身)発生件数	件/年		○	市内で発生した人口1万人当たりの交通事故(人身)発生件数	人身事故発生件数を減らし、安心して安全に暮らせるまちを目指します。
達成目標1	防犯活動登録団体数	団体	○		市内の防犯活動登録団体数	防犯活動登録団体数の増加により、犯罪発生件数を減らし、安心して安全に暮らせるまちを目指します。
	笠岡市消費生活問題研究協議会の会員数	人	○		笠岡市消費生活問題研究協議会の会員数	会員数を増やすことにより、地域への声かけを増やし、消費者被害を未然に防ぐ事を目指します。
	消費生活相談窓口の利用件数	件/年	○		消費生活相談の利用件数	市民が利用しやすい相談環境の維持により、被害の未然防止を目指します。
	法律相談窓口の利用件数	件/年	○		法律相談の利用件数	市民が利用しやすい相談環境の維持により、安心して安全に暮らせるまちを目指します。
達成目標2	交通安全教室実施回数	回/年	○		交通安全教室実施回数	啓発活動の継続により、交通事故件数の減少を目指します。
	高齢者の交通安全教室参加人数	人/年	○		高齢者の交通安全教室参加人数	啓発活動の継続により、高齢者の交通事故件数の減少を目指します。
	交通事故相談窓口の利用件数	件/年		○	交通事故相談の利用件数	市民が利用しやすい相談環境の維持により、安心して安全に暮らせるまちを目指します。

4-12 廃棄物・環境保全

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	処理施設へ搬入するごみの減量化率(2016年比)	%		○	2016年度を100とした時の各年のごみの量	ごみの適正処理及び減量化・資源化を通じて、循環型社会の形成を図ります。
達成目標1	ごみのリサイクル率	%	○		排出されたごみのうち再資源化された割合	ごみの適正処理及び減量化・資源化を通じて、循環型社会の形成を図ります。
	ごみの減量化・資源化に取り組んでいる市民の割合(市民意識調査)	%	○		市民意識調査による回答	ごみの適正処理及び減量化・資源化を通じて、循環型社会の形成を図ります。
達成目標2	住宅用太陽光発電システム等設置費補助金交付件数	件/年		○	補助制度を利用して太陽光発電システム等を設置した数	温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化を防止します。
達成目標3	海域の環境基準達成率	%	○		笠岡海域において環境基準を達成した割合	自然景観や多様な生物、賑わいなどに配慮し、地域の状況や特性に応じた豊かな海づくりを推進します。
	自然環境学習会の参加者数	人/年		○	自然環境学習会に参加した人数	参加者数を維持し、地域や学校における環境学習と環境問題への取組を推進します。

第5章 計画推進戦略

5-1 情報・プロモーションの推進

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	公式ウェブサイトアクセス数(1箇月当たり平均)	件/月	○		笠岡市公式ウェブサイトにアクセスした件数	公式ウェブサイトアクセス数の増加とともに、SNSなどと連動して情報発信を行うことで、市の魅力向上を図ります。
達成目標1	オープンデータの公開件数	件	○		オープンデータの公開件数	再利用可能な公共データを公開することで、誰もがデータを自由に分析・活用できる環境を目指します。
達成目標2	Wi-Fiスポットの整備箇所数	箇所	○		Wi-Fiスポットの整備箇所数	公衆無線LAN設備を整備することで、誰もがインターネット通信を手軽に利用できる環境を目指します。
達成目標3	市職員のセキュリティ研修終了率	%	○		市職員のセキュリティ研修における終了率	研修終了率の向上により、市職員のセキュリティスキル及び意識の向上によるセキュリティレベルの向上を目指します。

5-2 健全な財政運営

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	実質公債費比率	%		○	財政規模に対する公債費等の返済額の占める割合(3年平均)	公債費等の返済による市財政の圧迫を防ぎ、安定した財政運営を継続します。
	将来負担比率	%		○	財政規模に対する将来負担すべき実質的な負債の占める割合	将来負担すべき実質的な負債による市財政の圧迫を防ぎ、安定した財政運営を継続します。
	経常収支比率	%		○	経常的な一般財源に対する経常経費が占める割合	財政構造の硬化化を抑制し、財政規模に見合った財政運営を行います。
達成目標 1	普通会計建設地方債残高	億円		○	建設事業に伴う一般会計等の借金残高	借金返済による市財政の圧迫を防ぎ、安定した財政運営を継続します。
	市全体の建設地方債残高	億円		○	特別会計等も含めた市全体の借金残高	借金返済による市財政の圧迫を防ぎ、安定した財政運営を継続します。
達成目標 2	財政調整基金残高	億円	○		税収減や災害等の不測の支出増加に対処するための基金残高	不測の事態にも対応できる安定した財政基盤を確立します。
	公共施設整備費引当基金残高	億円	○		公共施設の整備に備えた基金残高	今後増加が見込まれる公共施設の更新や長寿命化事業等の財政需要に対応できる基金残高を確保します。
達成目標 3	事業の廃止・縮小による効果額	百万円		○	事業廃止・縮小による事業費の減額	一般財源が縮小傾向にある中でも、選択と集中による施策展開で事業費を減額し、効率的かつ効果的なまちづくりを目指します。
	経常経費充当一般財源額(退職手当除く)	億円		○	経常経費(人件費(退職手当を除く)、公債費、扶助費等)に充てられる一般財源額	一般財源が減少傾向にある中、経常的な経費の増大を防ぎ、財政の硬化化を抑制します。

5-3 財源の確保

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	自主財源の確保	百万円	○		各種取組により確保した自主財源の額	一般財源が減少傾向にある中でも、新たな財源を確保することで、安定した財政運営を継続します。
	市県民税等の未申告件数	件/年		○	市県民税等の未申告件数	未申告を解消することで、市税の賦課漏れを防止し、公正な課税を目指します。
	市税収納率(国保税除く)	%	○		国保税を除く市税の収納率(現年分と滞納繰越分の合計)	滞納者に納付を促し、場合によっては滞納処分することで、さらなる自主財源の確保を目指します。
	債権未収金額	百万円		○	市の公債権・私債権の滞納繰越分の合計(年度末時点)	全庁的な債権管理を進めることで、財源確保を目指します。
達成目標 1	新たな財源の確保	百万円	○		クラウドファンディングや国庫補助金、使用料の見直し等による収入の増	市税、地方交付税等の一般財源が減少傾向にある中、新たな財源を確保することで、新たな施策の積極的な展開を進めます。
	土地売却収入	百万円	○		土地売却収入額	市の公有財産として保有する必要のない財産については、積極的に売却処分を進め、財源の確保に努めます。
	土地建物貸付収入	百万円		○	土地建物貸付収入額	未利用財産の有効活用を努め、財源の確保に努めます。
	ふるさと笠岡思民寄附件数	件/年		○	ふるさと笠岡思民寄附件数	全庁的にふるさと納税事業を進めることで、財源確保を目指します。
達成目標 2	ふるさと笠岡思民寄附金額	百万円		○	ふるさと笠岡思民寄附金額	全庁的にふるさと納税事業を進めることで、財源確保を目指します。
	市県民税等の未申告件数	件/年		○	市県民税等の未申告件数	未申告を解消することで、市税の賦課漏れを防止し、公正な課税を目指します。
	償却資産(固定資産税)の未申告件数	件/年		○	償却資産申告書を送付したが申告がなかった件数	適切な申告を求め、固定資産税収の増加を目指します。
	市税収納率(国民健康保険税除く)	%	○		国保税を除く市税の収納率(現年分と滞納繰越分の合計)	滞納者に納付を促し、場合によっては滞納処分することで、更なる自主財源の確保を目指します。
達成目標 3	国民健康保険税収納率	%	○		国保税の収納率(現年分と滞納繰越分の合計)	滞納者に納付を促し、場合によっては滞納処分することで、国民健康保険を安定運営するための財源確保を目指します。
	債権未収金額	百万円		○	市の公債権・私債権の滞納繰越分の合計(年度末時点)	全庁的な債権管理を進めることで、財源確保を目指します。

5-4 計画管理

指標名	単 位	目指す方向性			指標・目標値の説明	指標を達成することによってどういう状況を目指しているか
		増加	維持	減少		
総合指標	施策評価の総合評価がA(計画どおり進行している)の施策数	施策	○		施策評価において、総合評価がAとなった施策の数	多くの施策がA評価となることにより、総合計画の順調な進行を目指します。
	市民の意見や提案が市政に反映されていると感じている市民の割合(市民意識調査)	%	○		市民意識調査による回答	市民から寄せられた意見や提案等の市民ニーズに的確に応える、市民満足度の高い市政運営を目指します。
	行財政改革年間効果額	億円		○	行政改革大綱で掲げている取組を実施することで得られる効果額	行政改革大綱で掲げる取組の効果額を維持し、より健全な行財政運営を目指します。
達成目標 1	ハコモノ施設総量の増減	m		○	ハコモノ施設延べ床面積の増減	財政状況や人口減少に応じて施設総量を縮減し、安定した財政運営を目指します。
	階層別必須研修の実施種類	種類	○		階層別必須研修の実施種類	それぞれの階層において必要な能力を身に付け、組織全体の底上げを目指します。

氏名	団体・役職等
会長 小林 正和	福山大学教授
副会長 大嶋 元義	笠岡市行政協力委員長協議会 会長
委員 浅野 ツヤ子	笠岡市愛育委員協議会 会長
委員 遠藤 保広	笠岡信用組合本店 営業部長
委員 大山 美智子	笠岡市社会教育委員会 委員長
委員 藏本 隆文	笠岡市議会議員
委員 齋藤 永美子	公募
委員 齋藤 一信	笠岡市議会議員
委員 谷川 篤司	弁護士
委員 玉置 裕美	笠岡市若者会議
委員 鳴本 哲矢	笠岡商工会議所 会頭
委員 西村 輝子	笠岡商工会議所 女性会 会長
委員 野本 明成	就実大学教授
委員 長谷川 絢の	笠岡市創生総合戦略懇談会 委員
委員 原田 啓子	笠岡市民生委員児童委員協議会
委員 東山 琴子	かさおか母親クラブ協議会 会長
委員 水野 善允	北木島まちづくり協議会 会長
委員 三谷 信恵	笠岡市教育委員会 教育委員

諮問書 写

平成 28 年 9 月 26 日

笠岡市総合計画審議会 会長 殿

笠岡市長 小 林 嘉 文

第 7 次笠岡市総合計画について（諮問）

笠岡市総合計画審議会条例（昭和 44 年 3 月 15 日条例第 4 号）第 2 条の規定により、「第 7 次笠岡市総合計画」の策定について貴会の意見を求めます。

答申書 写

平成 29 年 11 月 9 日

笠岡市長 小 林 嘉 文 様

笠岡市総合計画審議会
会長 小 林 正 和

第 7 次笠岡市総合計画（案）について（答申）

平成 28 年 9 月 26 日付けで本審議会に諮問された「第 7 次笠岡市総合計画（案）」について、別冊のとおり答申します。

基本構想・基本計画の実現に向けて、市民が満足感を実感できる、市民主役のまちづくりを進められることを希望します。



KASAOKA CITY

第7次 笠岡市総合計画

元気・快適・ときめき 進化するまち笠岡

発行日／2018年（平成30年）3月

発行／笠岡市 政策部企画政策課

〒714-8601 岡山県笠岡市中央町1番地の1

TEL：0865-69-2110 / FAX：0865-63-0228